

草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会 令和4-5年度の経過

令和4年度

【第1回】 令和4年6月30日（木）10時00分～12時00分

1. 報告事項

（1）市民参加の進捗および達成状況

<審議会の男女比率について>

- ・男女比率という言葉は昔、女性が活躍できるように評価項目を作られたということはわかるが、LGBTという言葉もあるので、男女比率を評価することが社会情勢を鑑みて疑問に思う。
- ・他の審議会では、意思決定を行う現場に女性が少ないので、意識的に女性比率を上げるためには意義があると思う。
- ・地域コミュニティにおける町内会長を選出する際に、各世帯主でないといけないという縛りがあるため、女性が意思決定の場に参加いただける機会が少ないという結果が出ている。
- ・男性委員と女性委員を募集するときには性自認なのか生物的な性別なのか、あるいはそれを問わないものなのか、どうするのかに関わってくると思う。



- ・多様な性をというところに関しては本審議会よりメッセージという形で担当課に伝えていく必要がある。
- ・性別について性自認と生物的な性別とどちらが優先されるのかを男女参画共同センターに確認したところ、国としても定めはなく、申告による決定が好ましいとのことであった。

<審議会の公募委員について>

- ・公募委員募集のときに18歳以上の市民であれば誰でもいいと記載されていればおそらく障害のある方も応募できると思うので、もっと門戸を広げられるような発想を持っていただきたい。



- ・市として、委員募集をする際は「18歳以上で、市内在住か通勤・通学しているか、市内で公益活動を行っている人。ただし、市の議員や職員、他の審議会などの委員を除く」という文言を記載している。

＜市民参加対象事業（パブリックコメント実施事業）の手続き状況について＞

- ・計画策定を行っている途中の素案の段階で、パブリックコメントなど市民意見を聞く手法を変えることも考えられる。
- ・計画等に関心がある人に届けられているか。



・市民参加の手法としてパブリックコメントは定着してきたが、0件になることが常態化しているため、新たな手法やアプローチを検討する必要がある。

（２）草津市協働のまちづくり推進計画について

＜令和３年度取組実績および令和４年度予定（中間支援組織）について＞

- ・事業団と社会福祉協議会が連携して事業等を実施していくことが大事で、これは中間支援組織の最大の課題だと思う。
- ・中間支援組織同士の連携協力はもう少し増えてほしい。



・キラリエマツリ、キラリエクリスマスの他、「草津福祉教養大学（市社協）」と「ひととまちの未来をつくるカレッジ（事業団）」の合同企画が実施された。

２．協議事項

（１）市民総合交流センターの活用について

- ・市民総合交流センターに来るメリットが感じられるようになれば活性化するのではないかな。
- ・空間デザインをするのであれば探検したくなるような階段のデザインにしてみるのもいいと思う。
- ・地域まちづくりセンターと使い分けをすればいい。
- ・市立まちづくりセンターのときと規模が変わって、顔の見える関係ではなくなった。
- ・キラリエ草津はフェリエに比べて、必ずここに来ないとできないことがないので、行く機会がない。

【第2回】 令和5年1月26日（木）13時30分～16時00分

1. 報告事項

(1) 第2次草津市協働のまちづくり推進計画 目標数値の評価

＜市民意識調査の結果について＞

- ・市民アンケートに答えた人が感じた数値なので、実数かどうかは分からないという前提で見たほうがいい。
- ・アンケート結果だけではなく、追加や補足の情報が欲しい。
- ・報告するときには、本来の数字と現場の事例などの説明を、良くなった、悪くなったなどの話をするときの材料として欲しい。
- ・地域カルテみたいなものを作っていくと数値目標の代替えの話としてできる。
- ・協働のまちづくり推進計画の更新にあたっては、コロナインパクトの状況を受け止めて、今後どうしていくかという話をする必要がある。
- ・事例の話などを丁寧にヒアリングしながら意見交換する機会を作るのも良いと思う。
- ・協働コーディネーターさんのお力も借りながら、そういう場を作って意見交換をして共通認識を深めていくことがあっても良い。

(2) 協働事業の推進について

＜市民活動交流会について＞

※令和5年1月21日（土）に実施した市民公益活動団体の交流会。
まちづくり協議会や団体の取組紹介を行った。

- ・山田学区のLINE活用の取組紹介が一番印象的だった。学区ごとの悩みは多少違うが、共通なことも多いため、成功事例の情報共有を市が中心になって拡散してほしい。
- ・まちづくり協議会で共通の悩みがあり、その悩みに対してじっくりと話し合いをする場が今のところあまりないことが課題である。

＜ラウンドテーブルについて＞

※テーマに沿って参加者がフラットな立場で意見交換を行いながら、協働事業が生まれることを最終目標とした市主催事業。令和6年度より事業団に移管。

- ・ラウンドテーブルについてもう少し市民の方に広く周知をしても良いのかなと思った。
- ・いろんなテーマ設定をすることで新しい人の参加が期待できると思う。
- ・団体さん同士で繋がる場ができていて、参加する人は参加するけれど、参加者が固定化しているので、次にどう広げていくか。
- ・新しい参加者が増えるよう、Step3（マッチング）で実現した事例等を挙げながら、市民に分かりやすく情報発信すれば良いと思う。
- ・京都の中京区でつながるカフェというものがあり、何か活動をしたいけれど、何をすれば良いかわからない人たちが集まって、その中で庭を造りたいとか二条駅前を盛り上げたい等の提案がいくつかあることから、人材バンクのようなものがあれば良いと思う。

3. 協議事項

(1) 市民参加の拡大に向けた取組について

<パブリックコメントについて>

- ・実際にパブリックコメントをする際は、意見提出様式を FAX か持参で提出しなければならず、忙しい人にとっては中々提出ができず不親切だと思った。



- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・令和6年度より草津市電子申請サービスでのパブリックコメント募集を開始。・引き続き新たな手法の検討を行う。 |
|--|

4. その他

<委員会の進め方について>

- ・生産的な委員会とするためには、やわらかい雰囲気、意見を言いやすい環境を整える必要がある。

<委員会の役割について>

- ・市民参加や協働の今後の方針や方向性の意見を出すための委員会であり、現状や課題を聞いたうえでさらにバージョンアップをするために議論をする場である。
- ・この審議会には色んな意見がある上でどのような方法を取ればシステムとして導入できるのか、草津市として制度として導入するのか等を議論する場だと思う。
- ・委員が市民側として、行政に意見を出すような形で伝えて、行政側はそれを受けてどうするという事ではなく、皆が今こういうことが課題なのでどうすればもっと良くなるかを味方として意見交換する必要があると思う。
- ・委員会の中でソリューションを先細りで考えることも、もちろん必要がその前に原因について議論する方が良い。
- ・協働とはどういうものなのか共通認識を持つべき。

<協働とは何かについて>

- ・協働とはそれぞれ違う立場で協力をして働くことや、話し合っより良いものを作ることだと思う。
- ・大枠は、それぞれ違う立場から意見を言い合っより良いものを作ることだと思う。その一つとしてパブコメが活性化していないからどうすればパブコメが増えるのかを考えたら良い。
- ・行政と市民がどう関わっていくのかを考えるのが協働。

＜今回の振り返りと今後の委員会について＞

- ・ どこに問題があるのか等を話すべきであり、それがスタートラインと確認できた。
- ・ ちゃんと議論をする場を持つべきということを確認できたのが良かった。
- ・ この委員会は何をするための委員会か改めて確認が必要。



- | |
|---|
| ・ まずはこの委員会から発言しやすい環境を整えていくため、次回は <u>フリートークによる意見交換会</u> を実施することとなった。 |
|---|

【意見交換会】 令和5年3月22日（水）13時30分～15時30分

※委員会の役割についてと協働のまちづくりについて2班に分かれてフリートークを実施。

1. 委員会の役割について

<疑問>

- ・何を議論する場かわかりにくい
- ・どのような意見をすればよいかわからない



<整理>

- ・個々の立場から自分事の課題を出し合う場
- ・現場の声を行政に届ける場
- ・それらの各論を総論へ広げていく議論が必要
- ・話しやすい空気感
- ・自分の意見が活かされる



<改善点>

- ・報告事項は簡潔に
- ・協議事項は議論のポイントを明確に

2. 協働のまちづくりについて意見交換

<疑問>

- ・なぜ協働が必要なのか
- ・協働とは何か



<整理>

- ・市民のやりたいことを実現しつつその活動が公益性を増す仕組み
- ・個々の市民活動の課題解決の方法
- ・課題をどう拾うかが重要
- ・データの裏にある課題や状況が見えるか
- ・多様な世代や立場の人等、より多くの人との意見交換



<今後の課題>

- ・協働に対する認識のすり合わせおよび各主体に合ったアプローチが必要
- ・個々の課題やデータの裏にあるものをどう拾い上げるか
- ・行政と中間支援組織との連携

・フリートークにより、課題であった委員会の雰囲気改善することができた。

【第1回】 令和5年7月27日（木）9時30分～11時30分

1. 意見交換会を踏まえて

草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会に期待することとして以下のとおりまとめた。

○様々な立場や経験から意見すること。

○より広く市民の意見が反映できる施策や計画となるよう市に助言すること。

○草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会として市に意見を提言すること。

- ・協働というのは市がどうサポートするか、市民参加とは市民がどう頑張るかという話だと思う。つまり市民が頑張って、それを市がうまくサポートするように市に提言するのがこの委員会ではないか。
- ・地域では、市民一人ひとりが何に悩んで困っているかを上手く吸い上げることができて、市民参加や協働に繋がっていくと考えている。
- ・担い手不足が顕著な中で、地域のことに関わりたい学生も多い。学生にはそれぞれ得意分野もあるので、そういったことを活かしながら、うまく学生の参加に繋げていくみたいなのところについても、考えていけるとよい。
- ・市民参加というのは、特別な人（意識の高い人）たちの世界という印象があり、そうではない人たちの意見もちゃんと拾われて大事にされるという環境が大切。

2. 報告事項

（1）市民参加の進捗および達成状況

＜審議会の男女比率・公募委員比率について＞

- ・女性の委員比率も重要ではあるが、審議会という場が発言しやすいかどうかの方が重要だと思う。
- ・どの審議会も性別だけではなく、その会議が審議するテーマに沿って、多様なメンバーを集めていると思うので、意見を出しやすくする工夫が必要。
- ・この委員会（草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会）は、委員の距離感も近く、発言しやすいと感じている。
- ・話しやすい審議会になれば、公募委員も増えると思う。



- ・各審議会等における男女比率や公募委員比率の達成状況に満足するのではなく、堅苦しくなく発言しやすい審議会となるよう、会議の持ち方や工夫が必要。
- ・当委員会で色々と工夫をして、良い事例となれば、これからの審議会はこうやっていきたいと思いますといったマニュアルを作るみたいなことも大事。

＜市民参加対象事業（パブリックコメント実施事業）の手続き状況について＞

- ・ 学生からすると ICT を活用していただくのは、参加しやすくなると思う。
- ・ 立命館大学で行っている「feel→do!」という取組は、高速ブレインストーミング方式で、これが最終的に政策立案に生かされるかどうかは別にしても、そういうワークショップで自分事として意見を出すことも大切。ICT と対面との組み合わせも重要だと思う。
- ・ 広く一般市民に問いかけるアンケートも必要であるが、一般市民が問いかけに対しパッと答えられるわけではない。むしろ活動の中ではどうですかとか、お宅の地域だどうですかというような、少しまとまりのある範囲で具体的な問いかけをしてみることも重要。



・ 政策形成過程の段階や内容に応じて、市民全体から意見を収集する場合と、実際に関わっている方々にヒアリングして収集する場合とを、上手く組み合わせていくことが重要。

（２）草津市協働のまちづくり推進計画の達成状況

- ・ 取組自体は非常に頑張っておられると思う。特に、いろんな立場の人が参加して、意見交換したり、自分がどういうバックグラウンドでまちづくりの活動をしているのかとかを話し合ったりするような取組は、新たな繋がりも生まれるため、これからも続けていってほしい。
- ・ コロナ禍の影響により、ボランティアの団体数は増えたもののボランティアの数自体は相当減ってしまったことは、コロナで失われたものを元に戻す難しさということを表しているのだと思う。
- ・ 取組実績の報告は、レンガを積むイソップ寓話と同じように感じる。それぞれの取組はレンガを積む作業であり、それ自体が目的ではない。それぞれの主体が何のためにレンガを積んでいるのかという目的意識の共有が重要。その立場から見て、レンガ積みをどのように行い、その結果何が生まれたのかを具体的に伝える事が大切だと思う。

2. 協議事項

＜第2次草津市協働のまちづくり推進計画の課題についての意見交換について＞

- ・ 今後の推進計画の策定にあたって、より良くしていくために何をすべきかという議論は、この委員会のメンバーだけではなくて、他の人の意見を踏まえながら進めていくべきだと思う。
- ・ 事業団が実施するアンケートについては、継続的に行っているものなので、特にコロナ禍3年後の状況みたいなことを確認するために、一定継続した内容を聞くことは大事かもしれない。
- ・ このアンケートの調査対象にまちづくり協議会が入っていないため、まちづくり協議会にも何かしらの調査をしていただきたい。
- ・ そもそもこの委員会は、草津市の協働について評価をするものであるが、評価のためには草津市の現状を把握していなければいけない。先ほどの実績報告での意見でもあったように、草津市が協働によってどのようなまちづくりを目指しているのかが見えてこない。だから改めてそういった話をする機会を設け、もう少しちゃんとした議論ができる場を継続して持てるようにしてほしい。



- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ <u>まちづくり協議会には別途ヒアリング</u>を行うこととする。・ 次回の委員会については、草津市の協働の現状把握について話し合うワークショップを実施する。 |
|--|

【第2回】 「ワークショップ」 令和5年9月14日（木）9時30分～12時00分

1. 市民参加と協働の現状把握について

協働と市民参加の現状把握として、行政・市民・審議会等がどのように関わっているか、相関図を作ってみようというワークショップを3班に分かれて実施した。

2. 意見の共有

＜市民視点＞

- ・市民から見てどこが何をしているのかわからない。
- ・どこに相談していいのかわからない。
- ・中間支援組織も重要な役割を担ってくれているが、元々つながりがない市民からは何をサポートしてもらえるかわからない。
- ・主体がたくさんあるので、福祉や防災の取組みも縦割りで連携しているように見えない。

＜行政視点＞

- ・横の連携が出来ていない。（セクショナリズム、風通しの悪さ、業務外への無関心さ等）
- ・地域に入って関係をつくることへの苦手意識がある。
- ・協働することのメリットが見えない。（協働が手続きになってしまっている）
- ・結果、組織外とのつながりもできない。



・行政・市民・審議会等の関わりを考える中で、第2次草津市協働のまちづくり推進計画のテーマである「学ぶ」「見える」「つながる」に焦点が当たった。

【第3回】 令和6年2月19日（月） 13時30分～16時00分

1. 報告事項

＜第2回委員会の振り返りについて＞

- ・第2次計画では「学ぶ」「見える」「つながる」をコンセプトとしてきたが、『見える』『つながる』に課題が見受けられる結果となった。

＜『見える』について＞

- ・それぞれの主体の役割や取組みを相互に理解する
- ・各主体が行う活動や対象のつながりや重なりを実感する
- ・お互いのことが見えると新たなつながりや重なりが生まれる

＜『つながる』について＞

- ・草津市としてのゴールを共通認識する
- ・担当業務以外への関心をもつ
- ・協働することへのメリットを実感する

2. 協議事項

＜まちづくり協議会へのヒアリング調査の結果について＞

- ・秋のふれあいまつりを、若い人を募り、実行委員会形式で行った学区があり、やってよかったという意見もあるが、若い人の中では休みを潰してまで行かなければならない、夜の会議が負担であるなどの意見があった。
- ・今は過渡期であり、変わっていかうとしている学区と、変わっていくペースについていけず、問題が出てきている学区といろいろある。進んでいるところは興味関心に基づき、やりたい人が手上げ方式で出てきており、地縁型と市民活動団体の融合が少しずつ見えてきている。
- ・10年前にニーズと合っていて取り組んできた行事が、毎年繰り返してやっているうちに苦痛になってきて、よく考えたら要らない事業だったというような事がある。
- ・プロジェクトベースは、プロジェクトベースで自主的にやっていた事が、続くうちに制度的になってくるとやらされる事になっていくという懸念がある。
- ・本来事業を始めた目的があるはずであり、そこを意識することが重要。
- ・いったん全部ゼロにリセットして、そこから必要な事が何かを考える学区もある。
- ・他の町内会との整合を合わせるために町内会同士で調整をすることも大切。
- ・地縁組織では、嫌だなと思いつながらでも、例えば、若い人も顔を出さないといけなからと顔を出す事で隣のお年寄りと話すというような事もある。
- ・町会長は1年交代が多く、継続性がない。自分の町内会の課題が分からないまま、次に渡すという事になってしまう。

- ・1年交代でも、10年～20年すればみんな順番が回り、地域の事を分かってくれるだろうという考えもある。
- ・必ず毎月会議をして、団体長と各町内会長が来るというルールにして、それぞれの課題を共有するという仕組みもある。
- ・福岡県では協議会の構成や進め方を明確にしている。
- ・時間とテーマを決めた話し合いが重要。
- ・町内会がまち協から抜けるというのは仕組み上、非常に問題である。福岡では町内会の8割が入っている事がまち協に交付金を出す条件となっており、抜けようがない。
- ・高齢化が進んでいて、他の町内会と均等に役員を選出する事がしんどいのでまち協と距離を置きたいと申し出る町内会もある。
- ・地域カルテのようなものがあると良い。
- ・住民自治ができるような仕組みを整えられれば、それが走れるような伴走者としての役割を果たせるかどうかで変わってくる。
- ・地域とちゃんとコンタクトを取って、地域の形が出来るのを見守るという事をしてほしい。

＜第2次草津市協働のまちづくり推進計画の成果と課題（中間取りまとめ）について＞

- ・コロナ禍の影響によりボランティア登録の方が400人減ったなど、社会情勢としての大きなインパクトに直面している。
- ・テーマやプロジェクト制を制度化すると息切れしてくる可能性がある。
- ・中間支援組織がいる中で、市と現場とどう繋がっていくかが課題。
- ・第3次計画を作る際には社会情勢の課題を踏まえてから作らなければならない。
- ・自発的にボランティアができるテーマが少ないという事が課題。
- ・地元に貢献する事がしたいという学生は、肌感覚ではたくさんいるので、うまくマッチングできるものがあればいいと思う。
- ・市が事業団や社協とどう関わっていくか、それを真ん中に置いて市民団体とどう関わっていくのか、この2～3年でもその関わり方が変わってきていると思う。そこも踏まえた上でカルテを共有する事がすごく大事。
- ・町内会長が20数か所の駐車場をお願いして回ったり、まち協の駐車場を使ったりという事が増えている。町内会の高齢化や崩壊が問題となっているが、その中でも高齢化しているまちには高齢化に対する取組が生まれている。若い世代の取組もあり、それらが一緒に描けると良いと思う。若い世代ばかり取り上げるのではなく、多様性を認められるまちづくり計画になれば良いと思う。
- ・暮らしの問題として個人の生活に関わるような事は、よっぽどの顔見知りでないと無償ボランティアで関わる事が難しいと思う。地域全体が高齢化している場合、そこに地域外の人が入ろうとすると多少なりとも有償の方が入りやすいと思う。

- ・事務局機能を有償で任せるといふ地域はある。
- ・福祉のサポートについては、無償とそうでない人が混ざると難しい。
- ・立命館大学のアメフト部がスクールガードをしている事例がある。地域に参画したい学生と、担い手がいない地域の高齢者とがマッチングした。このように資源を上手に活用する事が暮らしにマッチしていくとよいと思う。



- ・既存の活動を整理する必要がある。町内会の役員が1年という仕組みも整理が必要。
- ・中間支援組織の地域に寄り添うアドバイザーとしての役割が大事。
- ・全体総括として、ここまできたという事も整理が必要。
- ・通り一辺倒ではなく、具体的な話で総括をする必要がある。
- ・地域カルテはあるので上手く共有されていない事が課題。
- ・地域に寄り添う専門家が、地域の情報を持ちながら関わる事も大事。

1. 報告事項

（1）令和5年度の実績報告

<資料について>

- ・ 3つ目の成果として書かれている『見える』『つながる』という部分で課題が見受けられるという表現について、背景にあるコロナ禍についても総括資料に落とし込むべき。
- ・ 成果と課題の部分を、次の委員会での議論につなげるためにもっと丁寧に拾ってほしい。

（2）市民参加の進捗および達成状況

<市民参加対象事業（パブリックコメント実施事業）の手続き状況について>

- ・ 市民がもっと会議に参加できる手法を求められるため、具体的に何か工夫を凝らす必要があると思う。
- ・ その政策に関わる範囲の人たちに伝えられているかが課題だと思うので、地域に関わる政策や問題は協議会のほうで相談をするなどの筋書きがあってもいい。

2. 協議事項

（1）第2次草津市協働のまちづくり推進計画の成果と課題（案）について

- ・ 2年以上の委員会の評価として、資料の分量が少ない。
- ・ 資料8の「実績」と「課題」の間に「計画」があればわかりやすいと思った。
- ・ 第2次計画から第3次計画に行くときには、実績の数値だけでなく成果指標に対しての今後の方向性などもまとめる必要がある。



・ 計画全体の評価というよりも、前回の評価委員会で触れなかった主体についての資料なので、今回いただいた意見をもとに資料1を膨らませたものを総括として提示する。

（2）第3次草津市協働のまちづくり推進計画の構想（案）について

- ・ 市民活動調査の対象になっている団体の人たちは意識が高い人が多いが、住民ではあるがそこまで負担になるようなことは課されていない人もいるため、そのあたりを整理する必要があるのではないかな。
- ・ 無作為調査の制度を高めるために、それぞれの学区で調査をし、それを市がサポートするという仕組みを作っていけばいいのではないかな。
- ・ 第3次計画の方向性として、市内の活動事例や全国の先進事例を参考にするのは非常に画期的な試みだと思う。
- ・ これまでの話し合いの中で出ていた人材育成や役員の不足、後継者不足等について第3次計画の課題として提示し、議論していくのが望ましいと思う。
- ・ こんな風になったらいいなという市のメッセージやビジョンを計画の中に入れておく必要がある。